

「小学校・中学校の連携を強化するため、  
地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流を図る。」

## I 主題設定の理由

小中連携は、「地域とともにある学校」づくり、小学生の中学校進学に対する不安感を軽減し生徒指導上の諸問題に対応していくこと、9年間の系統性を確保し義務教育の目的・目標に掲げられる資質・能力・態度等をよりよく養えるようにしていくこと等の目的をもって進められている。塩山ブロック交流研究会においても、小学校・中学校の教職員が共通理解を深め、同一の課題意識のもと、子供たちの育成にあたることが必要となる。そのため、地域が抱える教育課題を共有し、その解決に向けた交流を進め、地域に根ざした教育の在り方を追究していくこととした。

## II 研究の具体的内容

### 1 第1回ブロック交流研究会「臨地研修」

(1) 日時 平成29年8月4日(金) 13:30～16:30

(2) 目的 塩山中学区の国宝や文化財等を見学し、地域素材の教材化を図る。

(3) 内容 臨地研修

#### ① 国宝・歴史コース

大善寺薬師堂で住職さんから歴史について話を聞いたり、柏尾の合戦(新選組)について甲州市観光ボランティアの方から話を聞いたりして学んだ。

#### ② 文化財・地場産業コース

上条集落の古民家を見学したり、甲州市文化財担当の方から上条集落(重要伝統的建造物群保存地区)について話を聞いたりした。

#### ③ 理科実験コース

科学の楽しさを味わわせる面白実験を体験した。

#### ④ 出前授業コース

産業技術短期大学校の出前講座として、Scratchで簡単プログラミングを体験した。

### 2 第2回ブロック交流研究会「塩山中学校授業公開及び情報交換会」

(1) 日時 平成29年11月22日(水) 14:00～16:30

(2) 目的 塩山中学校の授業の様子を小学校の教職員が参観し、交流を図る中で、塩山中学校区の課題を明らかにし、連携した教育実践を進める。

(3) 内容

ア 塩山中学校の授業の様子を参観する。

イ 学年ごとの分科会に分かれ、話合いの柱について情報交換・意見交流を行い、小学校・中学校が連携した教育実践が進められるようにする。

【話合いの柱】

①授業を参観しての感想・意見交換について

子どもたちの様子（学習面・生活面・行動・環境面）について情報交換を行った。

②1学年部会「学習規律」 2学年部会「自主学習の取組」

3学年部会「学校生活を支える大切なこと（あいさつ, 礼儀, ルール等）」をテーマに, 各校における家庭学習の手引きの活用状況, 取り組み内容について情報交換を行い, 小中の連携を図った。

3 第3回ブロック交流研究会「塩山南小学校授業公開及び学習会」

(1) 日時 平成30年1月17日(水) 14:00~16:30

(2) 目的 塩山南小学校の授業の様子を参観し, 意見交換を図る中で, 塩山中学校区の課題を明らかにし, 連携した教育実践を進める。

次期学習指導要領実施に向け, 対話力育成のための学習会を行なう。

(3) 内容

ア 塩山南小学校の授業の様子を参観する。

イ 学習会

テーマ「確かな学力を育む 主体的・対話的・深い学び」

講師 多田 孝志先生(金沢学院大学)

深い思考を育成する対話型授業の重要性, 対話を授業で有用に活用するためのポイントについて, 具体的な事例を紹介していただきながら学んだ。

### Ⅲ 成果と課題

#### 1 成果

- ・子どもたちの実態を把握し, 連携を図る上で, 小中両方の授業参観を実施したことは有効であった。
- ・臨地研修は, 地域の様子や歴史を知るよい機会となり, その後の学習指導に生かすことができた。
- ・授業後の研究討議や小中間での情報交換などで, 各学校の取り組みや学年毎の児童, 生徒の実態を把握することができた。
- ・3回の研究会を通して, 9年間を見据えた系統性を小中で確認し, 意思統一を図ることもでき, とても有意義であった。
- ・学習会として講師を招聘し, タイムリーな話題で講演していただいたこともとても参考になった。
- ・お互いに共通理解を持って, 子どもに向き合うことができたことが大きな成果といえる。また, そのことが中学校での活動に生かされている。

#### 2 課題

- ・小中間での学年, 学校の取り組みや児童, 生徒のようすを相互に認識することができた。その後の変容を把握する意味でも各校の情報交流の機会がもう少し取れると良い。
- ・学校行事や体験的な学習についても連携を図れるとさらによいと感じる。

(ブロック長 鈴木百合子)